

<島根県高校総体特集>

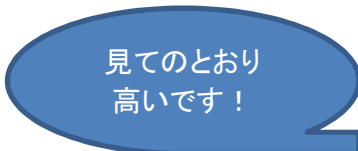
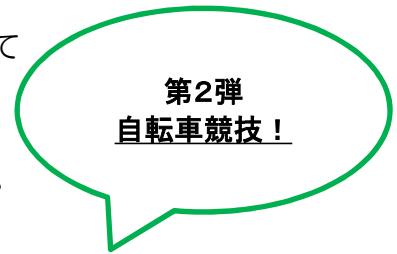
5月26日からおこなわれます島根県高校総体。今回は第2弾として自転車競技に注目したいと思います。

自転車競技は競技場内でおこなわれるトラック競技と一般公道やサーキットを使用したロード・レースに分けられます。

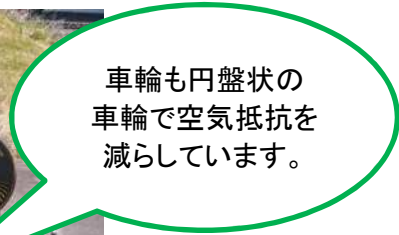
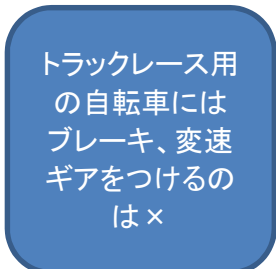
トラック競技は大田自転車競技場でおこなわれました。



(周長333m)



まず使用される自転車は一般の自転車と違いかなり軽量化されています。あらゆる部分にアルミやカーボン等の軽量素材が使用されています。規定で6.8kg以上と決められていて、現在使っているのは7kg後半だそうです。(全国レベルではもっと軽いそうです。)当然軽いほうが走ることへの負担が少ないので有利になります。仕様も金額次第ですって。



県総体での種目は団体戦のチーム・パーシュートや個人タイム・トライアルなど10種目あります。今回はその内の2種目を過去撮った写真とともにご紹介します。初日は団体戦のチーム・パーシュートからです。



<チーム・パーシュート>

1チーム4名で構成し、ホーム側とバック側から同時にスタートします。4名の力を合わせて相手チームを追い抜くことを目的に、4kmを走りきります。今回は出雲工業高校のみの参加でした。各チームは空気抵抗を減らすために”先頭交代”という技術をつかいます。



先頭選手はスピードが速くなるほど風圧による負担が大きくなるので、先頭を交代しながら4名の力を均等に出し切れるように走ります。平均速度は時速50kmを超え、ハイレベルになるほどチームワークよく走る姿は見応えがあります。タイムは3人目の選手がフィニッシュした時点となります。

<1kmタイムトライアル>

1km（女子は500m）の走行タイムを競います。男子は3周回、女子は1.5周回のタイムを電子計測します。単純な種目にみえますが、良い記録をだすためにはスタートのタイミング・素早い加速・ペース配分・コーナーの走り方などいろいろな要素があり、1/1000秒を競う過酷な競技です。プログラムに記載されているHまたはBの記号は、フィニッシュ位置を表しHはホーム側、Bはバック側からの同時スタートとなります。



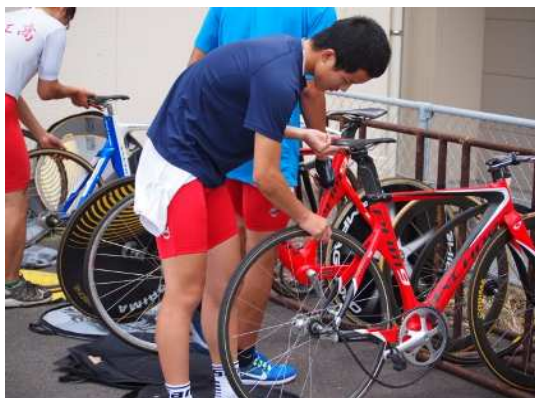
↑この写真を見てチーム・スプリントと写真とどこか違うのわかりますか？
ハンドルの形状が違いますよね。

チーム・スプリント
で使用していた
ハンドル

この形状は空気抵抗が少ない。
力が出しやすいハンドルは
になるとのこと。



選手のみなさんはそのことを考慮しながら自分で自転車を整備しています。



ハンドル
交換中！



<ロード・レース>

ロード・レースは陸上のマラソンに例えられ、“自転車競技の華”と呼ばれています。ロード・レースの最高峰とされる“ツール・ド・フランス”はヨーロッパではもとより日本でもテレビ放映されるほど有名です。さて県総体ではさくらおろち湖周回コース（12.3km×5周回）でおこなわれました。

ロード・レースの自転車は一般の道路を速く走るために、様々な工夫をされています。前後のブレーキレバーに変速装置が装着され、その重量は7kg程度になるように各パーツに軽量化が図られています。コース内には補給所が設けられ、選手は水・補食等をチームメイトから受け取ることができます。

さくらおろち湖コースは70%が平地、残りが上り坂と下り坂のコースで、選手の特徴で登りに強い選手と平地に強い選手、レース序盤に大差をつけて勝負を決めたい選手、強い選手について行ってゴール前で勝負する選手とそれぞれに作戦があります。下り坂は時速70kmを超えますので恐怖心との戦いもあります。かけひきや補給等とのタイミングなどで過酷な条件の中走る選手にとって勝利への重要なポイントになります。

ロードレース用
自転車





自転車競技では1人がスプリント、ロードと特性のちがう種目をこなしますので、本当にタフな競技です。
観戦前に予備知識をもって見たら、選手の動きやレース内容、ルール等への理解が深まり、手に汗にぎる興奮を味わうことができるでしょう！！

*ちなみにレース20分前にはこんな練習しています↓



今回ご協力いただいた出雲工業高校、飯南高校の選手のみなさん ありがとうございます！

